令和 4 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査速報

●実施状況

令和 4 年 5 月 23 日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、満潮が 9 時 41 分、干潮が 17 時 16 分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は $1.1\sim3.3$ m であった。また、St.25 では赤潮が、St.22 では貧酸素状態がそれぞれ確認された。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:54-10:50		10:52-11:40		11:44-12:40		12:27-13:40	
水深(m)	23.8		14.3		14.7		7.7	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温(℃)	21.9		20.0		24.2		21.4	
風向/ 風速(m/sec)	NE/5.8		ENE/5.6		NE/5.5		E/6	
波浪(m)	0.	.3	0.3		0.2		0.3	
透明度(m)	3.0		1.1		3.3		2.0	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	19.9	16.3	20.8	16.4	20.2	16.1	21.1	19.1
塩分(一)	29.8	34.0	24.1	33.2	29.2	33.4	28.0	29.5
DO(mg/L)	10.5	3.2	16.7	2.3	14.9	1.8	14.6	10.3
DO飽和度(%)	135.5	39.4	215.1	29.1	196.7	22.0	193.4	132.8
pH(-)	8.5	8.0	8.7	7.8	8.6	8.1	8.8	8.6
水の臭気	なし	なし	生臭	なし	なし	なし	なし	なし
備考			赤潮が発生していた。		下層で貧酸素状態 (DO:2mg/L 以下)が 確認された。			

観測層:上層(0m)·下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10				
魚類	ハタタテヌメリ(c) テンジクダイ(r) コモチジャコ(r) マコガレイ(r)	ハタタテヌメリ(r)	テンジクダイ(r)	アカエイ(r) マコガレイ(r)				
無類以外 (目立った種)	シャコ(G) ケブカエンコウガニ(m) スナヒトデ(c)	キセワタガイ(m) スナヒトデ(m) ケブカエンコウガニ(c)	オウギゴカイ(G) シャコ(c) クシノハクモヒトデ(c)	ホンビノスガイ(m) サルボウガイ(c) オウギゴカイ(c)				
備考	上記の他、ハナギン チャク科、タテジマウ ミウシ科、フタホシイ シガニ等が確認され た。	上記の他、イッカクク モガニ、シャコ、クシノ ハクモヒトデ等が確認 された。	上記の他、サメハダ ヘイケガニ、イッカクク モガニ、スナヒトデ等 が確認された。	上記の他、キセワタガイ、イッカククモガニ、 クシノハクモヒトデ等 が確認された。				

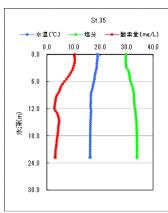
注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点位置



水質状況



地点状况



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



フタホシイシガニ(♀)



東京湾奥部に多く出現する小型のワ タリガニの仲間。抱卵したメススス か、フクロムシに寄生されたオススも 出現した。フクロムシはフジツ体内 にあり、黄色い部分は生殖腺力にあり、 黄色い部分は生殖能力を失い、 を自らの卵のように世話をする ような行動を取る。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



全長 8cm 程になるハゼの仲間。 体側に小さな青色の斑点が散在 する。東京湾では湾奥から湾央 にかけての水深 10~40mほどの 砂泥底に生息する。



比較的深所の泥底から砂泥底に 生息するハゼの仲間。東京湾全 域から出現記録があるが、現在 は主に湾奥に分布する。

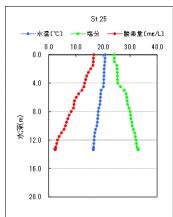


尖った側を下にして海底に突き 刺さったようにして生息すると 型の二枚貝。成長すると設 25cm を超えるが、東京湾の湾奥 部の個体は春から秋にかけて死 生する貧酸素水塊によって死滅 するため、今回採集された個体 は東京湾奥部で見られるも しては大きなものである。

調査地点位置

St.25B

水質状況



地点状况



西側には東京国際空港が見える。

採取試料





ほぼ球形で、殻は薄く脆い。 長い足が鳥の嘴に見えることが 名前の由来とされる。内湾の砂 泥底に生息し、湾奥部では夏季 の貧酸素水塊の発生により、ほ とんどが死亡する。貧酸素水塊 解消後に出現した稚貝は翌年春 に 60mm 程に成長し、漁獲され る。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



吻部はほっそりして尖って見 える。雄の前部背鰭軟条は糸状 に伸びる。尾鰭に黒く丸い斑紋 が散らばる。底曳き網で大量に 漁獲される。旬は冬から春。

テナガコブシ

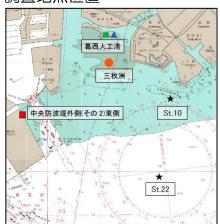


男鹿半島・東京湾~九州の水 深 10-180m の砂、砂泥地に棲 息。本個体はまだ小さいが、 成長した個体は鋏脚が非常に 長く、甲長の4倍近くに達す る。多くのカニは横歩きする が、本種を含むコブシガニ類 は前後に進むことができる。

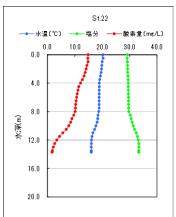


鮮やかな縦縞模様をもつ 3.5 cm 程の小型のエビで、浅い海の石 や岩の隙間などに生息する。千 葉県~九州、瀬戸内海、黄海、 インド・西太平洋域の内湾浅瀬 に生息。

調查地点位置



水質状況



下層で貧酸素状態(DO:2mg/L 以下)が確認された。

地点状况



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料





東京湾全域に出現し、特に湾奥 に多い。砂泥底に生息して甲殻 類等を食べる。繁殖期は 7~10 月で、親魚が卵を口の中にくわ えて、孵化するまで保護する習 性を持つ。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



日本各地の水深15メートルか ら25メートルの内湾の砂泥地 に棲息する。かつて代表的な 江戸前の魚介類のひとつであ ったが、現在では全国的に天 然のクルマエビは極めて少な くなっている。



水深 30~50 メートルの泥 地に生息。大小1対の口を持 つ穴を掘って暮らしている。 海底の砂や泥にU字形の巣穴 を掘って生活する。肉食性 で、他の水生動物を強大な捕 脚を用い捕食する。

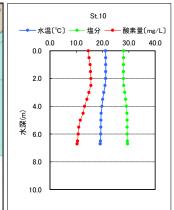


アメリカ大西洋側が原産の外来 種。貧酸素状態への耐性が高 く、東京湾などで繁殖してい る。本来の殻の色は白いが、貧 酸素化した海底に生息するもの は硫化物の影響で黒っぽくな る。近年、主に千葉県で漁獲さ れたものが市場に流通してい る。

調査地点位置

可是UMUE Tablestori Tablestori Minate St.10

水質状況



地点状况



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



東京湾で最も普通にみられる エイの仲間。胸びれで海底を あおいで掘り起こし、隠れて いる甲殻類や多毛類などを食 べる。尾部に毒針を持ち、刺 されると危険。



東京湾では普通に見られるカレイの一種。成魚は全長 45 cm程まで成長する。水深 100m より浅い砂泥地に生息し、ゴカイなどを食べる。



干潟、潮間帯上部から水深 20m の砂泥地、汽水域などに多く、幼生期をアマモなどに付着して過ごす。成長するに従い砂泥地にもぐり込む。